

会議録

会議の名称	第7回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成24年2月24日 14時00分から15時30分まで
開催場所	保谷庁舎 別棟B会議室
出席者	委員：伊藤会長、貫井副会長、長谷川委員、富岡委員、本橋正明委員、宇田川委員、東京都産業労働局農林水産部産業振興課 中屋係長（柴田委員代理）山田委員、櫻井委員 事務局：宮坂主幹、稲船主事、鹿森主任（産業振興マスタープラン担当）石黒委員、本橋英次委員、柴田委員、高井委員は所用により欠席
議題	1 開会 2 議題 （1）部会の経過報告 （2）実施計画について （3）その他
会議資料の名称	資料1 第7回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（平成23年度見直し案） 資料2 第7回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 部会経過・農業フォーラム報告資料
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>○会長： 本日は、石黒委員、本橋英次委員、柴田委員、高井委員より欠席の連絡あり。東京都産業労働局農林水産部産業振興課 中屋係長が柴田委員代理で出席。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）部会の経過報告</p> <p>○事務局： 配布資料の確認。 第6回推進委員会の会議録で修正・訂正等がある場合は、3月2日（金曜日）までに事務局へ連絡。修正がなければ確定版とする。 資料2 第7回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 部会経過・農業フォーラム報告資料1～4について説明。</p>	

会長：

各部会ごとに質問、意見があればうかがいたいと思う。各部会に参加頂いている委員の皆さんにおかれましては、大変ご苦労様です。「花摘みの丘」については、資料2の部会資料の他に、別紙で配布されているちらし（案）があり、事業としてはかなり進んで具体的に4月の開園に向けて準備が進んでいる状況ということで、この件について何かご意見・ご質問があればお願いしたい。

花摘みの丘は、4月開園ということだが、花の準備は大丈夫なのか？

○事務局：

農家の方からは、できる部分から始めていくという考えだと聞いている。

○会長：

実際には、農園の状況に合わせていかななくてはいけないと思うが、良いスタートができればと思う。ちらしについては、気になった点としては裏面の下部に記載されている、「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」というように東京都の事業名も併記しておく必要があるのか？

委員：

東京都の事業でも、国のお金を活用したりする際は、東京都と国の両方を表記していることはあるので、このちらしのように表記してもらえ方が望ましい。

○会長：

花摘みの丘に限らず他の事業でも、本事業に関する共通の西東京市としてのメッセージが入っても良いのではないのか。花摘みの丘の場合は、「花昭園」が主体となって取り組む事業なので、ちらしには「花昭園」の取り組みが9割以上入ってくるのかと思うが、今のちらしの裏面には「花摘みの丘は「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」の支援を受けています。」という書き方がされていますが、どこかに例えば「西東京市はめぐみちゃんブランドとして市内の農業・農地の保全に取り組んでいます。」というような、西東京市としての一貫した取り組みの中の一つであるというようなメッセージが入っても良いのではないのか？

○委員：

ちらしのデザインについて、2～3指摘がある。表にイラストと重なって表記されている文字の色と重なっている部分が読みにくいように思う。裏面の文字の色くらいが丁度良いのではないのか？また、全体的に文字のサイズが小さいので、もっと大きくした方が良い。

○会長：

タイトルの「花摘みの丘」という文字も見えにくいと思う。花摘みの丘の一番のウリは、市民が直接生産者のところへ行き、農園の中に足を踏み入れることができるという説明があったかと思うので、ちらしでは一番何がウリになるのかを決めて伝えた方が分かりやすい。花の生産農家で花摘み体験ができるようになるということがストレート

に伝われるような内容にしてはどうか？また、裏面の「めぐみちゃんシールデー」については、めぐみちゃんシール、めぐみちゃんとは何かの説明が必要なのではないか？その辺も少し工夫がされればと思う。

○事務局：

いただいた意見を会長、副会長、事務局で整理して、修正を行いたいと思う。

○事務局：

4月の開園時には、切花の露地栽培は間に合わず、摘み取りは前面に出すことはできない事情があるのでご理解頂きたい。ちらしについては、どんどんバージョンを変えて出していければと思う。

○会長：

めぐみちゃん弁当・メニューについて何か意見があればお願いしたい。

この事業については、西東京市の「産業振興マスタープラン」とのリンクがあり、仕組みをしっかり見据えながら、めぐみちゃんメニューの一環として「一店逸品」を展開していくという話があった。1点気になったのは、2～26ページの平成24年度では「めぐみちゃん弁当・メニューのしくみ検討」で、平成25年度のゴールが「めぐみちゃん弁当・メニューのルールとしくみ整備」となっているが、実施計画の中では平成25年度に実施することになっているので、内容が合わないのではないか？「産業振興マスタープラン」や商工会との関連でこのような流れになっているのか？

○事務局：

基本的には既存のサービスや商品が平成24年度に動き出し、めぐみちゃん弁当・メニューが後追いで動き出す流れとなっている。最終的には平成25年度には、実施ベースに持っていきたいと考えている。資料1の17ページの実施事業のプログラム上では平成23年度～25年度の前半にかけて「しくみづくり・試行」としており、同時に平成25年度の当初から実施をしていくように考えているので、平成25年度の文言については、「めぐみちゃん弁当・メニューの試行・実施」に変更したいと思う。

○会長：

具体的な話としては、「一店逸品」という話だったが、メニューの試作としてお店側が提供しているメニューとは別に、西東京市オリジナル、又は部会で作ったメニューとなるのか？先程の事務局の説明だと、日本各地で取り組まれているB級グルメのような、地域毎に推していくメニューを決めて展開をしていくということではなく、幅広く市内産の野菜を使用しているものをめぐみちゃんメニューとして認証していくという考え方なのか？

○事務局：

イメージとしては、今会長が説明した後者のものに近く、あまり固定化して絞りにすぎない方が農産物を多く活用できるのではないかと、そして安定供給につながるのではないかと話部会では挙がっていた。ただ、あまり規定をゆるくして何でもOKということにしてしまうと、逸品性から逸脱してしまうので、そのへんのさじ加減を引き続き検

討していきたい。

○会長：

平成25年度の実施の内容としては試作をするのではなく、お墨付きを与えていった店舗のマップやメニューのカタログを作成し、そういう情報整理をして市民に提供していくことが平成25年度に事業としては行われるのではないかと？

部会に参加した委員からも意見があればいただきたい。

○産業振興課（鹿森）：

一店逸品事業に関しては、先程事務局からの説明にあったように市内の既存の飲食サービスを含めて、そのお店ならではの商品、サービスを紹介する事業を西東京市としては平成24年度から仕組みづくりを予定である。それとは別立てで、めぐみちゃん弁当・メニュー事業があり、先程お話に出たように農産物を使ったメニューを市内の飲食店に作っていただき、最終的には成果物として冊子にできればと考えている。

○会長：

一店逸品とは、別に新しいメニューを飲食店に作ってもらうということか？

○産業振興課（鹿森）：

一店逸品は西東京市産の農産物の使用にはこだわらず、西東京市のお店の紹介という考え方となる。めぐみちゃん弁当・メニューが一店逸品になる可能性もある。

○委員：

農業者サイドの意見としては、かなり農産物の安定的な供給については不安を感じる。特に露地野菜は厳しいかと思う。ある程度の施設と規模を持ち、安定供給ができる生産農家を早く探しておくべきだ。現在西東京市で、年間を通して安定的に出荷ができる農家は限られており、生産をいくつかの農家へ振り分けていかないと難しいのではないかと。そして農家側も品種や栽培方法、施設等も検討、準備をしなければならぬと思うので、早く動き出さないと間に合わないかと思う。キャベツならば、5月～7月上旬、そして秋は10月～12月で終わってしまい、それ以外に安定的に供給できる野菜を考えなくてはならない。そして弁当等に供給をしてもらえることを考えてくれる農家を早めに探して検討を進めていかないといけないと思う。そんなに簡単にはいかないだろうし、時間がかかるかと思う。

○委員：

先程の事務局等話に結び付くかと思うが、めぐみちゃん弁当・メニュー部会ではメニューの中で野菜を何品、何パーセント使ったら良いのかという議論があったが、量に限らずお弁当・メニューの中に一品でも市内産の野菜が入っていれば認証という、間口を広げる方向で話がまとまっていった。なおかつ、弁当・メニューは健康的な内容のものとし、野菜をできるだけ使用したものという話になっていた。（先ほどの）委員が指摘したことに関連して、弁当・メニューの中に何品も市内産農産物を使用するというと負担があるので、旬の時期に採れる野菜を弁当・メニューとして利用していこうという方向で話は進んできている。

○委員：

極端な話にはならないかと思うが、量や品質にこだわらないということだと、実際に食べてみた消費者ががっかりすることにならないような配慮が必要なのではないかと思う。

○委員：

一店逸品と似たような事業で、東京都産業労働局が取り組んでいる「東京特産食材使用店」は都内産農林水産物を使用している飲食店には「とうきょう特産食材使用店」と書いてあるボードが掲げられる。八王子市の京王プラザホテル八王子内の飲食店も登録がされていたりする。東京都が小さい冊子を発行しており、登録店舗の紹介等を行っていたかと思う。取り組み内容としては、似ている部分が多いかと思うので、事業の実施に当たってはルール作り等参考にしてみてもどうか？

また、先ほど指摘があったように安定的な農産物の供給は難しいかと思う。西東京市の近隣でいうと、JA東京あおば、多摩川沿いの農協の2つは、管内の農産物を活用した加工品として、レトルトカレーと餃子を販売しているので、このような取り組みも参考になるのではないか？

○会長：

東京都の「東京特産食材使用店」については、成果物だけではなく、どのようなルールを設けて登録店を決めているのか等の情報を、東京都より西東京市へ提供をしてもらってはどうか？

○委員：

この「東京特産食材使用店」は登録基準がよく分からない点が多く、JA東京みらいの管轄で登録がされているのは、東村山市の「鮭孝」というお寿司屋のみである。

○副会長：

飲食店から応募をして審査を受けて、認定された飲食店が冊子に紹介されたようだ。しかし募集の際の周知が徹底されていなかったようで、情報を入手していない飲食店も多数あったようで、JA東京みらいの管轄エリアではこのお寿司屋さん一店舗だけになったようだ。

めぐみちゃん弁当・メニューの事業として冊子まで作成できるかは分からないが、緑ちょうちんのような役割を果たすのぼり旗や暖簾等の活用というアイディアは部会の議論でも挙がっていた。市内産の農産物の使用率までを決めることは難しく、1品だけでも市内産ということを進めていくことになろうかと思うが、長谷川委員からの指摘になったことも懸念されるので検討が必要である。ただ食べて違いが出るようなところまではいかないと思うので、西東京市産の農産物を使用しているという点をPRしていくことで話はまとまってきているかと思う。

○会長：

めぐみちゃんマーケットについて、質問、意見等あったらお願いしたい。

実施計画の中では、来年度の前半は準備を行い、後半から開催に入っていくというこ

とになっていたかと思う。資料2の4～28ページの平成25年度の部分で「めぐみちゃんマーケットの運営ルールとしくみ整備」となっているが、実際のマーケットの開催という話が出てこないが、開催のイメージを具体的に検討していく時期がきているかと思う。

○事務局：

基本的には、平成24年度より拠点として整備されたところから随時取り組んでいくという考え方なので、保谷駅北部エリアの花摘みの丘が完成したら、ここから随時始めていく。拠点を中心にして展開していくという考え方であり、資料2の掲載内容については、過去に開催した部会の内容なのでこのような表現になっているが、実際の事業のプログラムとしては実施計画に書かれているように平成24年度の後半から始動する予定である。

○事務局：

第2回都市農業フォーラムの報告。

○会長：

非常に内容の充実したフォーラムだったと思う。

○会長：

次に資料1の実施計画見直し案については、田無駅南部エリアが主な修正になるかと思うので、要点を説明してもらえればと思う。

○事務局：

資料1 第7回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（平成23年度見直し案）について説明。

○委員：

2点確認したいことがある。1つ目に保谷駅北部エリアの花摘みの丘、農のアカデミー体験実習農園については、実施段階にきているので（仮称）が取れて正式名称になったということなのか。2つ目は、13ページの（2）事業の概要と実施主体の中の実施主体としてJAが追加されたかと思う。JAが追加された経緯を教えてください。

○事務局：

1点目の質問については、ご指摘のように実施段階に入ったので（仮称）が取れたということになる。2点目のJAに実施主体として加わってもらった理由としては、個別に農家をあたっていると事業として地域での協力・参加に結びついていかないため、JAに協力をしてもらい進めていこうという考えからである。14ページ事業内容の中で「樹木名板を設置します。」という点については、できるだけ多くの圃場の表から見える樹木の部分に設置を協力していただきたいと考えているので、JAに実施主体として協力をお願いした次第である。

○委員：

他のエリアに関しても、将来的にはJAに実施主体として協力をお願いしていくという

ことか。

○事務局：

特に田無駅南部エリアについては、拠点整備から交流エリアの設定という変更があったためであり、他のエリアについては当該農家との関係が強いという点もあり、特にJAに実施主体として協力をしてもらうことは考えていない。この件については、今後検討をしていきたいと思う。

○副会長：

実質的には、JAには協力をしてもらっているかと思う。

○委員：

事業名から（仮称）が取れる経緯として、以前は議会で予算が成立した後で（仮称）が取れて正式名称に変わるという説明を聞いた記憶があるが、保谷駅北部エリアの事業も予算面の措置が取れたということも踏まえて（仮称）が取れたということなのか、もしくは、本日の推進委員会を経て（仮称）がなくなり、正式名称となったということなのか。

○事務局：

保谷駅北部エリアの2つの事業については、平成23年度に予算化済みで、花摘みの丘の予算上の事業名はまちづくり事業費補助金となっており、（仮称）花摘みの丘農園という名称は出てこない。農のアカデミー体験実習農園については、設置工事費となり事業名は出ており、（仮称）農のアカデミー体験実習農園として予算計上を行い議決された。実際は予算化された後、いつ（仮称）が取れるのかというと、現実に応じてということで、事業が稼動する段階で（仮称）をとるということになる。

○会長：

(3) その他、について何かあればお願いしたい。

○事務局：

実施計画の取り扱いについては、田無駅南部エリア以外では名称等の微修正を行っている箇所があり、この点については会長、副会長に一任していただければと思う。

○会長：

実施計画は、平成22年度に策定しているが、来年度以降も必要に応じて見直しを行うという理解をしている。

○事務局：

推進委員会、並びに部会にご協力いただき、お忙しい中ありがとうございました。平成23年度としては最後の推進委員会になりますが、次年度以降も引き続きご協力お願いいたします。

○会長：

今回の委員会は今年度の最終会となり、委員としての任期は2ヵ年なので最終年ということで、最後に各委員よりご挨拶をいただきたい。

○委員：

都市農業について非常に貴重な勉強をさせていただいたと思います。第1回の推進委員会で自己紹介の際にも話しましたが、住んでいるマンションの目の前にある農地が段々と宅地が変わっていく状況があり、そういうことを目の当たりにしながら推進委員会に参加しました。推進委員会では都市農業・農地の重要性や大変さをよく理解できました。ここで勉強したことを何らかの形で皆さんに話していければと思います。どうもありがとうございました。

○委員：

2年間お疲れ様でした。まだこれからこの素晴らしい計画が実施されどんどん成功して、市民が西東京市には農業が必要だという方向にいかなくてはいけないなと思います。

○委員：

色々ありがとうございます。これからいよいよ実施という運びでございます。JAという農家に一番近い立場にいるつもりでいるので、農家と行政をつなぐ役割として何かございましたら、遠慮なく言っていただければできる限りお手伝いさせてもらいたいと思います。よろしく願います。ありがとうございました。

○委員：

色々お世話になりました。去年の4月より参加しておりますので、約10ヶ月お世話になりました。前年1年間の話が分からない部分もあり、大した話ができなかった点もありお詫びしたいと思います。4月からは花摘みの丘をオープンするということで、これから農園主の方には頑張ってもらい、花を通じて農業を市民の方に理解していただくお手伝いが少しでもできればJAとしても良いかと思えます。また、これから整備が始まる保谷駅南部エリアや田無駅南部エリアについても、西東京市全体の農業が市民の方に理解をしてもらえるように進められればと思います。ありがとうございました。

委員：

今回代理参加ではありますが、初めて推進委員会に参加させていただき、まちづくり事業を担当している者としては、引き続き平成24、25年度も計画をしている事業もありますので、整備完了後どのように使っていくのか等色々検討を進めていくかとは思いますが、我々の知識が及ぶ限りご支援をさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

○副会長：

事業年度としては4年あり、前半の2年は何とか格好がついた形になったかと思えますが、これからの2年の方が非常に厳しいかと思えます。何とか市民の皆さんにPRできるように、ハード事業だけではなく、都市農業フォーラムも含めたソフト事業の方がより市民とのつながりが深まるかと思えます。残り2年でもう少し頑張っ進めていければ

と思います。ありがとうございます。

○会長：

委員の皆様の部会等含めたご協力で本事業が進んでいるということを実感しています。委員会は協議会から考えますと、計画への意見出しかと思いましたが、計画の策定から推進という大変な委員会になっていると気付きました。委員の皆さんの努力があるからこそ、ここまでこられたのだと思っています。皆さん2年間ありがとうございました。お世話になりました。

それでは第7回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会を終了いたします。

以上